

園芸品目の収量向上による 集落営農法人の経営改善

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

当普及指導センターでは、集落営農法人への園芸作物の導入を推進しており、取組法人数も増加しています。

農事組合法人川並きぬがさファームは、平成21年1月の設立当初から、収益向上を図るため野菜栽培に取り組まれています。収量が低く、収益向上には至っていませんでした。

そこで、野菜部門の利益向上を目的として、経営技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

（1）チェックリストの作成

栽培ごよみに基づく作業手順書の作成と計画的な実践を支援しました。特に、課題であったカボチャの収穫期の作業確保や畦立て作業が適正に行えるようチェックリスト(表1)の作成利用を提案しました。

表1 提案したチェックリスト

生産工程	No.	管理・確認項目
基本事項	1	タマネギ栽培暦を読み、生産工程の管理項目を把握し、作業スケジュールを作成する。
	2	タマネギ栽培暦から、主要な作業スケジュールを作成する。
ほ場選び	※	下記に注意し、排水の良いほ場を選ぶ
	3	畝間に降雨後1日以上滞水しない。

（2）野菜の栽培技術改善支援

各品目の栽培ポイントを重点的に細やかな現地支援(表2)を行いました。

（3）新たな排水対策の実施

排水対策が不十分なタマネギほ場については、弾丸暗渠+溜枒を設置し、そこからポンプアップして水を抜く方法を考案しました。

表2 活動の経過

タマネギ	自ら判断し、適期防除が実施できるよう発生病害虫の特徴と防除薬剤の説明。作業省力化をねらい、収穫機とピッカーの利用ができるよう関係機関と調整。
カボチャ	着果率改善のために人工交配を実施。水稲作業とカボチャ収穫作業の競合を回避するため、作業体系の見直しを提案。
黒エダマメ	収益が少なかった小豆の代替作物として黒エダマメの栽培を提案。省力化のため脱英機が利用できるよう関係機関と調整。
キャベツ	畝立までの耕うん作業について詳しく説明。土壌水分を把握した上で作業を実施することが必要であることへの理解促進。

【普及活動の成果】

タマネギは、台風の影響もあり良い苗ができず収益増加に至りませんでした。カボチャとキャベツでは収益が増加し、園芸品目で37万円の増益が実現しました。また、黒エダマメの収益は少なかったものの、高収益作物として期待できる手ごたえをつかまれ、次年度も栽培される予定です。

◎対象者の意見

タマネギについては苗の不良、カボチャについては高温等の影響、黒エダマメについては麦跡の作付かつ、早生水稲収穫までに収穫を終えたいなど、こちらの要望に応じて対応いただけたのはありがたかったです(法人役員)。